

平成 17 年度「教育研究支援プロジェクト経費」成果報告書

プロジェクトチームの代表者 部・講座等名 高度情報研究教育センター

氏 名 菊 地 章

プロジェクトの名称	遠隔授業観察システムを活用した授業研究に関する研究	配分 予算額	798,000 円
プロジェクトの概要	<p>鳴門教育大学高度情報研究教育センターは、平成 16 年度の概算要求により導入した「遠隔授業観察システム」を運用している。これは平成 15 年に概算要求を提出して認められ、平成 16 年 4 月に遠隔授業観察システムのための仕様策定委員会を設置し、7 月に仕様書の広告、10 月に開札、平成 17 年 3 月にシステム納入の運びとなり、遠隔授業観察システムの運用を開始したものである。</p> <p>運用にあたっては学内の附属学校園を含めた教員全体に関心を持って戴く必要があり、高度情報研究教育センターでは、本年度は附属とのネットワーク接続を前提とした高島地区と附属小・中学校を結んだ講習会を 2 回、移動形態での利用としての附属幼稚園での講習会 1 回を実施した。今後も学内講習会を継続する予定である。本遠隔授業観察システムは、遠隔操作可能なカメラやマイクを使用して、遠隔の教室等をネットワークを介して身近に接続し、互いに距離の違いを感じさせない授業実践を行うことを可能としている。</p> <p>鳴門教育大学附属学校園は約 20Km の距離が離れており、教育実習等での学生・教員の移動が大変となっている。そのため、機器構成における主たるコントローラは高島地区の講義棟 B308 講義室に設置し、また相手側として附属小学校の多目的教室棟 1 階グループ学習室ならびに附属中学校 3 階第一メディアルームに固定型の対応機器を設置し、さらに附属養護学校と附属幼稚園には移動型の機器を設置している。附属小学校と附属中学校のカメラ操作は講義棟 B308 講義室から操作することができ、また附属小学校または附属中学校の映像と B308 講義室の映像を双方向にしたり一方方向にしたりすることができ、これにより、高島地区から徳島市内まで移動することなく学部ならびに大学院の授業での観察学習等を実施することができ、また附属学校園の幼児・児童・生徒・教員との対話形式の授業も運用できる。</p> <p>本プロジェクトはこの有効利用を図るための研究である。</p>		
成果の概要	<p>平成 17 年度の遠隔授業観察システムの利用においては、下記に示す実践事例を伴った運用を行ってきた。日時、担当大学教員、場所等、附属学校園学級等、大学授業等の項目として列挙すると以下ようになる。</p> <p>(1) 平成 18 年 1 月 18 日 8:45-10:30、余郷裕次先生 附属小学校 横山先生 1 年 2 組 国語 (お話動物園) 初等中等教科教育実践 I 学部 1 年</p> <p>(2) 平成 18 年 1 月 23 日 14:40-16:10、長島真人先生 附属小学校 5 年 2 組 音楽 協力(大西育郎先生、小川雅功先生、北真善美先生) 実地教育 XI (専修実地教育) 学部 3 年生</p> <p>(3) 平成 18 年 1 月 30 日 9:00-10:30、草原和博先生 梅津正美先生 附属小学校 稲井智義先生 院生佐藤章浩氏授業 6 年 2 組 社会科「国の政治」実地教育 XI (専修実地教育) 学部 3 年</p> <p>(4) 平成 18 年 2 月 15 日 8:55-9:40、山森直人先生 附属中学校 森宏子先生 1 年 英語 学部 3・4 年 実地教育 XI (専修実地教育)</p> <p>全体として有効利用が図られ、生徒にとっても違和感なくむしろ興味を持って授業に参加していた。逆に教師側に抵抗があるため、どのように相手側に映し出されているかをモニタするとより安心して授業進行が図れることが分かった。また、附属と大学とで互いに行う双方向の授業運用が効果的であり、今後の発展が期待される。</p> <p>これらの研究成果を報告書としてまとめた。その題目を次に示す。(1) 遠隔授業観察システムについて (菊地章、世羅博昭、松田和典、曾根直人)、(2) 遠隔授業観察システムを利用した学部学生の反応—学部 1 年生初等中等教科教育実践 (国語) I の場合— (余郷裕次)、(3) 遠隔授業観察システムを活用した大学授業の改善に関する実践的研究—臨床的な指導力の育成をめざした音楽授業の研究を通して— (長島真人)、(4) 社会科授業実践の基盤となる授業分析力と教材解釈力の育成—遠隔授業観察システムを活用した演習の一事例— (草原和博)、(5) 遠隔授業観察システムを利用した学部授業実践—実地教育 VI・XI (英語科) の場合— (山森直人)、(6) 遠隔授業観察システム活用の類型、ノウハウ、システム改良に向けての提案 (藤原伸彦、松田和典、余郷裕次、長島真人、草原和博、山森直人、梅津正美、菊地章)、(7) 教育実習の事前学習を目的とした VOD サーバーを介した映像コンテンツの利用 (濱井洋典、菊地章、藤原伸彦、曾根直人、松田和典)</p>		

- (注) 1. 箇条書き等により簡明に記入すること。
 2. 概要については、800 字程度にまとめること。
 3. 研究協力者として院生等が参加している場合、院生等の報告書があれば添付すること。
 4. なるべくパソコン等で作成願います。